

学

年

通

信

令和3年11月号
3学年発行

「人生の最大の喜びは他人のために生きること」 マザー・テレサ

いたるところでキンモクセイの香りがしていますが、まだまだ朝晩の気温の変化に身体が対応できてないのは私だけではないと思っています。いよいよ進学組の出願も本格的になってきました。これから勝負です！自分のライバルは自分と同じレベル。つまり頑張っただけでも上に行ったものが勝利です。今の自分を少しでも高めて下さい。気を抜かず、やるべきことを全力でやって下さい。

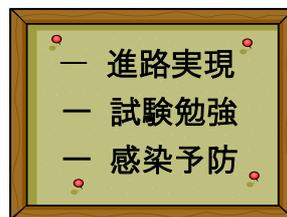
さて、とうとうですが「あなたは幸せをどんな時に感じますか？」あのマザー・テレサさんは「人生の最大の喜びは他人のために生きること」という言葉を残しています。また「幸福の矛盾」と言って、お金持で裕福な生活をしている人ほど、幸せを感じていないというデータが出ているそうです。満足にはき物もなく自給自足の生活をして暮らしている発展途上の国ほど幸せを感じている人が多いとも言われています。つまり、幸せは自分の心の在り方、持ち方ひとつで変わり、その人の心の中にあるのです。そう考えると、「毎日健康で普通に生活できることが本当に幸せなのだ」と考えて良いのだと思います。

11月は新人大会、各種検定また月末には期末考査もあります。そして12月の文化祭に向けて準備もしなくてはなりません。または自動車学校へ通学する人も多いと思います。残り少ない高校生活をしっかりと楽しんで下さい。

【社会人マナー講座】



【今月の目標】



【今月のおもな予定】

3日(水)	秋の体験入学(金曜授業)	12日(金)	就職内定者セミナー
5日(金)	代休	21日(日)	日商簿記検定
11日(木)～	新人大会(特別時間割)	30日(火)～	2学期期末考査

【今月の人】 プロ野球ヤクルトを監督としてセ・リーグ優勝に導いた 高津臣吾さん

1990年代から2000年代初頭にかけてヤクルトの黄金期を支えた、かつての名選手が、2年連続最下位に沈んでいたチームを頂点に導いた。141試合目でようやく優勝を決め「選手がそれぞれの役割を理解して一生懸命戦ってくれた」と喜んだ。野村克也元監督の下、サイドスローから繰り出すシンカーを武器に抑え投手として君臨した。テレビ番組でかつらをかぶってカラオケで歌うなど陽気な姿が印象的だったが、選手生活は必ずしも順風満帆ではなかった。米大リーグで2年間プレーした後、テスト入団でヤクルトに戻り、2年後には戦力外の屈辱も味わった。現役にこだわり、大リーグ傘下のマイナーや韓国、台湾のチームを渡り歩き、最後は独立リーグのルートインBCリーグ新潟で選手兼任監督を務めた。経験で培った「全力でチャレンジした選手の結果は責めない」との信念を貫き、チームに積極性を植え付けた。監督としての2年間は新型コロナウイルス禍の期間と重なる。監督初勝利は観客のいない神宮球場だった。今でもファンが球場で思い切り喜べない状況で「制限の中でもいい試合を見せるのが使命。でもやっぱり、ファンの生の東京音頭を聞きたい」と願っている。